

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3年6月28日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490201450		
法人名	株式会社SOCサポート		
事業所名	グループホームシェアーハピネス		
所在地	広島市安佐南区伴中央2-8-10 TEL:082-962-7597		
自己評価作成日	令和3年6月8日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	なし
-------------	----

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年6月22日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

併設している訪問看護ステーションと近くにある医療機関の医師と、医療面での連携をしっかりと図っている。また、入居者が一日を活動的に過ごせるように、一日のスケジュールがだいたい決められており、午前・午後と体を動かす時間がある。また、趣味活動として、塗り絵や工作を入居者みんなで行い大きな作品を作って楽しんでいる。1Fにはアップライトピアノ、2Fには電子ピアノを設置し、懐かしい歌や季節の歌、歌謡曲などを一緒に歌い音楽の時間も充実している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

開設後1年、コロナ禍による自粛はあるが、最近の特徴的な取組みとして第一に「馴染みの人や場との関係継続の支援」に工夫が見られる。即ち事業所では現在のコロナ禍による面会制限下の中、基本的には家族との電話連絡を介した関係継続となっているが、できるだけ利用者・家族の気持ちに寄り添った支援に努めるべく、併せて新聞（お便り）での情報提供も行っている。第二に「かかりつけ医の受診支援」「看護職員との協働」に工夫が見られる。即ち法人母体の医療機関に隣接し、医療と24時間体制にて連携を密にした運営が行われ、緊急時においても医療の支援が行える体制がある。腹部大動脈瘤を有する重度の利用者に手術の対応とせず、むしろ活動性を確保することで生活の質向上、要介護状態の改善に繋げた経緯がある。又、日常的にも下肢浮腫を軽減させるべく昼寝の時間を設けている。

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者が住み慣れた地域で安心して生活できるように専門的知識と経験に基づき誠意を持ったサービス提供をしていく」という理念だが、開設1年間は職員の入退職が多く、どの程度職員に浸透しているかは不明である。	事業所開設時に策定した理念を実践上の立ち返るべき原点として位置付けるよう管理者が開設当初職員に説明した。開設後1年を経て利用者の個別的な生活作りを目指し、利用者への対応や状態変化等を振り返る中で理念の実践に繋げるよう、気付きを意見交換し共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所の運営内容について地域から理解されるように地域の人に挨拶、声掛けを日頃から努めている。コロナ禍であるためコミュニケーション上の限界はある。駐車場で、朝ラジオ体操してもらっている。	現在はコロナ禍により散歩やドライブ以外の外出は自粛中だが、近くを散歩中に挨拶を交わしたり、地域住民にラジオ体操の場として駐車場を提供している。又、近隣農家から野菜の差し入れや事業所周囲の草抜きに地域住民の協力も得る等、コロナ禍での交流継続を工夫している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	開設直後、入居者の離設があったり、暴力行為により警察介入の事件があったりだが、その都度、認知症の方の行動特性などを説明し、理解していただくようにしている。コロナ終息後は、認知症についての相談を受けられるような体制を作っていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、運営推進会議は職員及び利用者からのみの参加となっている。地域の見識者や包括の管理者から意見をもらっているが、ほとんどがコロナ対策の内容である。	会議はコロナ禍により職員・利用者の参加の他は民生委員と地域包括支援センター職員の書面による事前照会となっている。会議では事業所の活動報告が行われ、照会先からコロナ対策として医療連携への期待があった。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	開設時は市町担当者と連絡を取り事業内容について説明することがあったが、コロナ禍のため現在は具体的な取組みはない。	地域包括支援センター職員が運営推進会議に事前照会で関わり、会議資料を配布して情報共有を図っている。市町担当者とは日頃から相談や報告、行政主催の集団指導等の研修会へのオンライン参加を通して協力関係の構築を図っている。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開設時に、身体拘束について、職員と話し合った。身体拘束に関する知識も、レポート提出によって個人個人考えてもらっている。	研修会等を通して職員は「拘束をしない」必要性を認識し具体的なケアの中で実践を重ねている。身体拘束適正化委員会を定期的に開催しており、運営推進会議の中で拘束例はない旨を報告することもある。夜間センサーマットを設置し対応している。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	当施設では、虐待は考えられない状況ではあるが、気が付かないうちにそのような雰囲気が作られないように、開業時のミーティングで話し合った。また常日頃から、そのような態度が無いように管理者や現場の主任が注意を払っている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社協のパンフレットを設置し、該当ケースがある場合には話し合うことになっている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、出来るだけ詳しく事業内容を説明して理解してもらい納得できるよう努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話での連絡時や家族にお会いした時に、家族の個々の要望を伺い、できる範囲で取り入れている。例えば、個人的な電話でのコミュニケーション。着せてほしい洋服の組み合わせなど。	家族とは介護計画更新時等で意見・要望を把握し、近況報告などを行っている。現在はコロナ禍で面会自粛だが、家族と連絡をとり迅速な対応に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	開設1年目ではあるが、現場主任とのミーティングを頻回に実施し、職員の意見を一つ一つ検討し運営へと反映している。	毎日の申し送りは回覧形式で行う他、随時の個別面談等を通して管理者は職員の意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案等に対する支援体制を採っている。職員の提案によりコロナ感染防止対策で空気清浄機の導入や利用者間の相性による席の配置換えをした経緯がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務態度を給料へ反映、また個々の生活状況に応じて勤務体制を検討し働きやすくやりがいのある就業環境を作るように努めている。パート勤務の方に対しても、勤務負担を給与に反映できるように、早番手当、遅番手当を6月から導入。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティングの中で個々の職員の意見を尊重しまた、日々コミュニケーションを密に取り観察する中で職員の勤務態度や意欲を把握している。コロナ禍により外部での研修をこの1年間実施できていなかったが、収束したら外部での介護ケアや認知症に関する研修の機会を設ける予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍のため実施できていない。コロナが収束したら、運営推進会議などを通じて、ネットワークづくりをしていきたい。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に家族から生活歴や環境、性格などの情報収集を行い、本人とコミュニケーションを取りまた観察する中で不安がないか等確認を行う。本人が安心して生活して頂けるよう意向を聞きなるべく不安を取り除くことができるように対応している。		

自己評価	外部評価	項目( 1Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	現在はコロナ禍のため家族との面会は禁止となっているものの、毎月お便りを発行して運営内容をお伝えしている。また、個別に入居者の状況を知りたい人には、電話をして伝えている。個別の要望も、共同生活に支障のない範囲で受け入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前に出来るだけ本人についての情報収集を行い、その人に合った支援を考えていく。特に、医療面での対応には気を付けている。ただ、一人暮らしを行っていた方などの場合には生活環境など真の情報が得られないことがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に生活をしているという感覚を持って頂くために、話を聞くだけでなくスタッフが入居者に相談をしてみたり悩みを聞いて頂いたりと一緒にいる時間を共有している。利用者が個々の気持ちを遠慮なく職員に伝えられるような関係性作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	月に一度、日頃の入居者の様子がわかる写真をとり、新聞の中で編集して家族に送っている。現在はコロナ禍により面会禁止であるため、家族との関係性の構築には限界があるかもしれないが、預けっぱなしではなく、現在の状況を理解してもらえるように気をつけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ感染予防のため、外出や面会などの制限があり、馴染みの人との交流や馴染みのある場所への外出などが実施できていない状況である。手紙などの受け入れは行っている。ただ、そのことが本人の不穏の要因となる場合も少なくない。	「気軽に訪問できる事業所作り」「地域との絆」を大事にしているが、現在はコロナ禍による面会制限中であり、希望する家族へは、月1回の近況報告など、利用者・家族の気持ちに寄り添った支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目( 1Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の性格を把握し、会話の成立の程度や入居者同士の相性など日々観察を行った上で、席の配置を決定するなど、個々の性格を尊重し関係性が上手くいくように職員が配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了時は、家族の要望を聴きながら次の事業所や病院を探し、また情報提供を行っている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	スタッフの意見や観察情報をもとに入居者について分析し、何がその方にとって最も適しているのかを話し合い、スタッフ間で共有している。本人とコミュニケーションをとっていく中で、どうしたいか・どうしてきたか知り、常に気を配っている。	利用者の習慣や好み等の基本情報を基に、その後はその方に深く関わりをもつことで思いを汲み取り、連絡ノート等で共有している。利用者の得意な家事で洗い物や盆拭きを手伝ってもらったり、寝たきりの利用者をフロアで他の方と昼食を共にする等、思いの共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前に、家族や相談員から生活環境や背景、それまでどのようなサービスを利用し入所に至ったかなどの情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の日々の観察を怠ることなく、少しでも様子の変化や身体的な変化があれば職員の連絡ノートなどで情報共有し、検討している。一人ひとりの生活の仕方は異なるため、本人のペースを尊重しながら、無理のない時間の過ごし方をしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>介護計画には、本人や家族の要望を聞いた上で、職員の介護上の意見を反映させて作成するようにしている。入居者の状況に変化が生じた場合には、その都度計画に反映するか否か検討している。</p>	<p>介護計画原案を担当者会議で検討し、電話連絡等で家族の同意を得て本案としている。月に一回計画作成担当者がモニタリングを行い、定期的に計画を見直している。最近の立案例はリスク管理、特に転倒防止を主に声掛け・早朝夜間の見守り強化、環境整備に努めている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やどのようなケアを行ったかについては、ノートを使用し職員が情報共有と確認が行えるようにしている。また、このような情報を活かせるように、常に話し合いをしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>生活の場であるため、新しく生まれたニーズでも出来ることであれば実行に移している。入居者の状況は日々変化するので、柔軟に対応するように、管理者と現場の主任が話し合っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍のため地域資源の活用は十分に実施できない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の病状に合わせて、必要な受診を行っている。家族が受診の同行ができない場合が多いので、そのような場合は有料ではあるが、職員が対応している。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。協力医から月2回の往診や協力歯科医から適宜往診もある。専門医の受診は家族の協力も得ながら行なわれている。併設訪問看護からも利用者の健康管理について適宜協力・支援を受けている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	併設の訪問看護ステーションの看護師と利用者の身体状況についての情報共有を日々行っており、身体状況の変化等に応じて検査や受診を行うなど早めに対応している。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には相談員にグループホームでの生活状況や健康状態についての情報をしっかりと伝達している。退院の際には、入院中の情報を伝達してもらい、退院後のグループホームでの生活介護に活かしている。訪問担当医とも入退院時の情報共有をしっかりと行っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期における対応についての経験は、まだ無いが、入居時に、重症化した場合や終末期の対応の仕方について、事業所の方針をお伝えしている。その際には、個人の要望や家族の考えを尊重し、介護と医療スタッフの連携を図って対応していく考えである。	こちらの体制で可能であれば、看取りを行なう方針である。契約時に「重度化した場合における対応及び看取り介護に関する指針」で説明・了解を得ている。重度化した際には家族・医師等で話し合いを行い、指針に基づき適切な支援を行う方針である。開設後1年でまだ看取り事例はない。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時には、経験のあるスタッフや連携している看護師が応急手当することになっている。訪問看護は隣にあるのですぐに対応できる。また、急変や事故発生時に備え、救急時の対応方法やスタッフ間の連携については職員間で確認している。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災については、スプリンクラーの設置及び消防への自動通知で対応している。地震や水害の場合は、その時の状況に応じて避難方法を選択する予定となっている。地域との協力体制は現時点では築いていない。	開設後1年であり、避難訓練は開設準備期間に1回実施され、「消防計画・防災及び非常災害時対応マニュアル」を整備している。ハザードマップでは非該当地域だが、土砂災害特別警戒区域に近接しており、地震や水害等、非常災害時の避難計画を立案している。	避難訓練は開設準備期間に1回実施したがコロナ禍でもあり、消防署の立ち合いの下での実施までは至っていない。現場での避難誘導訓練を検証する中で避難行動・経路や手順書の見直し、地域との協力体制のあり方等、より実践的で実効性のある災害対策の構築を期待したい。



自己評価	外部評価	項目( 1Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	コミュニケーションをとる際には丁寧に言葉選びをし、スピーチロックを使用しないよう配慮している。そして、日常から丁寧語や敬語を使用して対応している。また、日常生活の中でプライバシーを保つために、トイレ内で「うんち出た？」など排泄に関することを大きな声で言わないようにしている。	研修で職員の幅広い知識の習得と資質向上を図る体制もある。尊厳に配慮してケアに関わり、利用者への言葉かけも不適切な対応には指導や気づきを促すが、職員間で話しやすい雰囲気もある。個人情報についても各階の月刊通信も別々に作り家族に配布する等、配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	グループホームでは、13時からは昼寝時間とし身体を休めてもらうようにしているが、ベッドで臥床されたくない方はフロアにてスタッフと話をするなどして過ごして頂くなど本人のしたい事を尊重し希望に応じて臨機応変に対応している。利用者が共同生活の中で何がしたいかを、会話や観察している中で見つけ実際に実行してもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームでは、10時からは体操やレクリエーションの時間となっているが、希望されない人や体調がすぐれない人、夜間不眠により寝不足な人は体操に参加せず、居室で休んでいただくなど、個々のペースに合わせて生活を送っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣を行う前に一緒に着る服を選んでいく。朝の整容の時間を長く必要とされる方は、鏡を使用する時間を確保できるように他の方との時間調整をしている。今はコロナ禍により外出や外部者との接触を控えているが、理容師に依頼し髪型を整えてもらうといった支援もしていきたい。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	月に一度、お花見弁当やお節など季節を感じることができる行事食を提供。また、事前に食べたいものについて希望を聞き、希望に添うようにしている。食器洗いなど、安全に配慮しながら協力して行っている。毎回ではないものの、地域の方から季節の野菜や果物をもらった時には準備等を手伝ってもらい取れたての物を食べ楽しんでもらっている。	食事は外部業者から届いたレトルト食材を温め、職員の作るご飯と汁物を添えて提供している。月に一度、好みを聞いて寿司等を提供したり、近隣農家から差し入れの野菜が食卓に上ることもある。利用者は盆拭き等、役割に応じた手伝いをしている。体重に応じた目標水分の摂取に努めている。	

自己評価	外部評価	項目( 1Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個々の食事量、栄養状態、体調を把握し、普段と様子が違う時は記録に残し、スタッフ間で申し送りをし、個々に合った食事形態、水分量を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後は必ず、口腔ケアの声掛け誘導、介助を実施している。義歯が合わず、口腔内に傷のある場合は、家族了解のもと訪問歯科で見てもらおうよう手配する。夕食後は義歯を外し、ケースに保管する。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ほとんどのの方が声掛け誘導、介助を食前後で行っているが、それ以外の方は排泄パターンを把握している。個々に合ったリハパン、パッドをスタッフ間で話し合って使用している。</p>	<p>排泄記録表で排泄パターンを把握したトイレ誘導を基本としている。可動式手すりの設置やその方に適したパンツ・パッド導入等、状態像に合わせた排泄の自立支援を行っている。夜間排泄時の転倒防止の為、センサーマットを設置して支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>おやつ時にオリゴ糖を使用している。排泄チェック表を見ながら、薬の必要な方は使用することで排便を促している。出そうで出ない時は、ホットパックや腹部マッサージを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回入浴していただいている。浴槽につかるのが好きな方は少し長めに入浴してもらっている。シャワー浴の方には、足浴も行っている。</p>	<p>週2回の午前浴が基本だが、利用者の体調や入浴習慣に合わせ、好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者の体の負担を考慮しシャワー浴や足浴で対応したり、必要な利用者にはリフト浴も可能である。据え置き式家庭浴槽は水平移動可能で介助スペースも確保できている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>個々に、休みたい時間が異なっているので、入居者に合った時間に休んでもらっている。下肢浮腫を軽減させるため午睡の時間を設けている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>個々のお薬説明書を見て、情報をしっかり把握し、誤薬や、服薬ミスが無いように、トリプルチェックしている。服薬介助の際は、しっかり飲み込むまで確認をしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>何が個々に合っているか色々試してみて、楽しんでもできるものをしている。パズル、色塗り、ゲームなど。食事後の皿・お盆拭きなどもしていただいている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>コロナ禍のため、日常的には行っていないが、ドライブや近くへの散歩などは行っている。</p>	<p>コロナ禍で外出は当面の間自粛をしているが、天候が良ければ近隣の散歩や1時間圏内のドライブを適宜行い、利用者の自宅等、普段は行けないような場所で「非日常」を楽しんでいる。玄関前の外気浴や近くの法人農園でテーブルを囲んでの花見弁当を食べる等の行事も行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>持ち込むことで、紛失や盗難などのトラブルのもとになるため、入居前に家族に説明、納得していただきお金は持ち込まないようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目( 1Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お二人ほど、携帯を自己管理しており、職員も支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	中心部分に、皆さんが集まるフロアがあり、そこには大きな窓があるので外がよく見える。散歩中の犬を見たり、オリーブの木を見たりして楽しんでいる。キッチンもオープンになっているので、調理の状況が聞こえてきて、今日は何かできるかね?と会話が弾む。	季節の花や正月・七夕等、行事の飾り付けや利用者とする壁掛け作品で季節の移ろいが感じられるよう取り組み、窓からの採光や朝食・夕食の匂い等で居心地の良い生活空間となるよう支援している。又感染症対策で空気除菌清浄機も活用し換気等にも万全を期している。癒しに繋ぐべく各階にピアノもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	座り心地の良いソファを置いているので、気の合った入居者同士おしゃべりをしたり、外を見て楽しむ環境がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ゆっくりくつろいでもらえるように、今まで使用していたソファや使い慣れたTVを配置し、一人でも落ち着けるように配慮している。ベッドに大きなぬいぐるみを置く入居者もいる。	居室にはベッド・エアコン等が備え付けられ、テレビ等、使い慣れた物や足も伸ばせる畳マット等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。又、各室の扉の上に小さなステンドグラスがあり、疎外感のないような配慮や利用者の顔写真を置き自室確認に役立てている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	例えば、キッチンはオープンタイプで、手伝うことができる入居者は、自宅でしてきたような家事を、職員見守りのもと、安全に行うことができる。		

V アウトカム項目( 1Fユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「利用者が住み慣れた地域で安心して生活できるように専門的知識と経験に基づき誠意を持ったサービス提供をしていく」という理念だが、開設1年間は職員の入退職が多く全員には浸透していない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	事業所の運営内容について地域から理解されるように日頃から努め、コロナ禍であるため積極的には交流の機会はないものの地域の方とコミュニケーションをとり交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	開設1年であり地域貢献はまだできていないが、近い将来に認知症についての相談を受けられるような体制を作っていきたいと考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍のため、運営推進会議は職員及び利用者へのみの参加となっている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	開設時は市町担当者と連絡を取り事業内容について説明することがあったが、コロナ禍のため現在は具体的な取組みはない。		

自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	開業時、身体拘束禁止に関する話し合いの場を設け、職員の今までの経験や、身体拘束となるケースについて理解し、身体拘束が行われないように共通認識を高めた。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待禁止は、人としても当然のことだが、そのような組織風土が生まれにくいよう日頃から注意するようにしている。管理者が目を光らせ、徹底している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	社協のパンフレットを各フロアに配置し説明をしている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の際には、出来るだけ詳しく事業内容を説明して理解してもらい納得できるよう努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話での連絡時や家族にお会いした時に、家族の個々の要望をできる範囲で取り入れている。		



自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	開設1年目ではあるが、ミーティングを頻回に実施し職員の意見を一つ一つ検討し運営へと反映している。		
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務態度を給料へ反映、また個々の生活状況に応じて勤務体制を検討し働きやすくやりがいのある就業環境を作るように努めている。		
13		○職員を育てる取組み  代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	ミーティングの中で個々の職員の意見を尊重しまた、日々コミュニケーションを密に取り観察する中で職員の勤務態度や意欲を把握している。コロナ禍により外部での研修をこの1年間実施できていなかったが、収束したら外部での介護ケアや認知症に関する研修の機会を設ける予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上  代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍のため実施できていない		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	「家族に会いたい」「美味しい物を娘と一緒に食べにいきたい」という要望があるが、今コロナ禍で感染してはいけないので「コロナの予防接種が2回終わり、コロナが落ち着いたらご家族様に来てもらいましょう」などと声かけを行い納得していただくよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	グループホームという施設自体がどのようなものなのかわからないとの意見を多く頂くため、どのようなものかなるべく詳しく丁寧に説明している。今まで生活していたレベルを落としたりできないので自分でできることはやらせて欲しいなどの要望があった場合、洗濯や皿洗いなどの生活に関わることをしていただくようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所前に出来るだけ本人についての情報収集を行い、その人に合った支援を考えていくが、一人暮らしを行っていた方など場合には生活環境など真の情報得られないことがある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	耳が聞こえにくい方もいるため、その方の隣に職員が付き間に入り、入居者様同士が共通の話をするなどコミュニケーションができるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナ禍により家族との面会は制限しているため、家族様とは電話でのやりとりしかできていないものの、電話で話す中で交流機会を保ち、また本人の要望や買ってきてもらいたいものなどを伝え物品を準備して頂くことで共に支援をして頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	1週間に1回～2回、電話で連絡をとり交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	午前中は体操、午後からはレクリエーションの時間をとり、全員が参加できるようにし入居者同士が交流できる機会を作っている。毎月壁画作りを全員で行っているが、協力して制作し完成させていく上で関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービス利用終了時は、家族の要望を聴きながら次の事業所や病院を探し、また情報提供を行っている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	できる限り本人の要望を日常生活の中に反映できるように、傾聴や観察することで情報収集に努めている。毎日の食事の変化が欲しいという要望に対して、月1度食べたいものを聞きお寿司やお好み焼きを提供している。また、お花見弁当やお正月には個々のお重におせち料理を詰め提供するなど季節を食事の中で感じてもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に家ではリビングの床にで横になりテレビを見ていた方に対して、生活が再現できるよう畳を持ってきてもらい床に畳を引いて生活をして頂いている。日中休まれる時は畳の上で足を伸ばしテレビを見たりされるなどこれまでの暮らしに近い過ごし方をしてもらっている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前は家では自分の好きな時間に起きており、朝早く起きることが苦手な方がいる。その方に対しては、朝食の保管可能な時間までは声を掛けずにいるなど工夫をしている。また日中、部屋で過ごしたい方は部屋でテレビを見たりして過ごして頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>家族と本人の意向を聞きケアプランを立て、月一回モニタリングで見直しを行い、できていない所は翌月の課題として記入している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子やどのようなケアを行ったかについては、ノートを使用し職員が情報共有と確認が行えるようにしている。身体面では情報共有しているが、介護計画の見直しは不十分である。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>生活の場であるため、新しく生まれたニーズでも出来ることであれば実行に移している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ禍のため地域資源の活用は十分に実施できない。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>個々の病状に合わせて、必要な受診を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24時間体制で看護師と連絡を取り、体調不良、排便状況・精神状態の変化、転倒などがあった場合はグループホームに来てもらったり指示を出してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員と連絡を取り連携し、入院の際には相談員の方にグループホームでの生活状況についての情報をしっかりと伝達している。退院1週間前には様子をみに病院まで伺う。退院の際には、入院中の情報を伝達してもらい、退院後のグループホームでの生活介護に活かしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期における対応については、まだ看取りが無いが、個人の要望や家族の考えを尊重し、介護と医療スタッフの連携を図って対応していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時には、経験のあるスタッフや連携している看護師が応急手当する、そして救急要請をしている。急変や事故発生時に備え、救急時の対応方法の把握やスタッフ間の連携について確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	火災については、スプリンクラーの設置及び消防への自動通知で対応している。地震や水害の場合は、その時の状況に応じて避難方法を選択する予定となっている。地域との協力体制は特別には築いていない。		

自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄などで失敗しても他の利用者様にはわからないようにしている。レクリエーションの時など他の人にはできないのに自分にはできないと言われる方には職員と一緒にできるよう支援したり精神的な負担にならないよう配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	施設内での、音楽が聴きたい・ビデオが見たいなどの要望には対応がしているが、コロナ禍のため買い物に行き好きなものを買いたいという施設外での要望には対応できていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝、もう少し寝たいという方には寝て頂いたり、今は体操やレクリエーションをしたくないという方には部屋で過ごしていただくなど、本人の希望に応じて生活して頂いている。入浴など本人の気持ちが乗らない時は、無理強いないよう配慮し本人の意思を尊重している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝はパジャマから服へ、夜は服からパジャマへと更衣を行ってもらう。また、タンスからその日に着たい服と一緒に選んでいただきおしゃれの支援を行い、またボタンのかけ違い等があれば直したり、離床後に髪を整えたりと身だしなみのサポートも行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は宅配メニューで決まっているが、月に一度の行事食や食べたいものの希望を聞き宅配メニューにないお寿司やお好み焼きなどを提供している。カレーなど一緒に作れるものは、皮を剥いたり炒めたりと安全面に配慮しつつ一緒に作っている。後片付けはできる方には皿洗いなどをして頂いている。おやつは希望のものを時々聞き提供している。		

自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量や栄養を把握し、栄養が足りない方はエンシュアリキッド栄養剤を飲んで頂いている。水分量は個々の体重から1日の水分摂取量を計算し、水分摂取して頂くようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後は必ず入れ歯を外して歯磨きをして頂いている。綺麗に歯を磨くことが難しい方には職員が介助する。1週間に1回は入れ歯洗浄剤を使用し清潔を保っている。歯ブラシは2ヶ月に1回交換している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>トイレに「行きたい」と言われた方には、誘導し対応している。排泄時に自分で衣服の上げ下げができる方はいただき、排泄後排便時のみ介助し拭き取りをしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>毎回の排便状況を記録に残し、排便コントロールができていない方には食事摂取量や食べ方、運動量を再確認している。便秘薬が処方されている方は適切な容量・使用方法を守り服薬して頂いている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>1日2～3名の入浴支援を行い、個々の時間をしっかりと確保しゆっくりと入浴して頂いている。入りたくない日があれば、次の日に入って頂くよう希望に対応している。便失禁などがあった後、清潔を保つためお風呂に入りたいか希望を伺い、希望された方には入浴して頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	20時に寝たいと言われる方は誘 導し寝て頂いたり、家では21時 に寝ていたと言われる方には就 寝時間まで自由に過ごして頂い たりと個々の就寝時間に配慮し ている。就寝中の部屋の温度調 節を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	個々の薬の説明書のファイルを 作成し、1週間に1回用量・用 法・注意事項欄を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	毎食後の食器洗いをしたり洗濯 物をしたりと日常生活の中で自 分でできることはして頂いてい る。花が好きな方や気分転換を 行うために近くの農園へ花を見 に職員と一緒に外出している。 1ヶ月に1回行事食で季節を感 じてもらっている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	コロナ禍で感染予防のため外出 支援は出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひ とりの希望や力に応じて、お金 を所持したり使えるように支 援している。	所持することにより、お金がな い・財布がないなどの訴えがあ ったり、他の人の前で「あの 人が私のお金を盗った」などと 物取られ妄想のある方がいた こともあり、施設内ではお金 は所持しないようにしている。		



自己評価	外部評価	項 目( 2Fユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	フロア専用の携帯電話を設置しており、家族様には携帯電話番号を伝えるため連絡が取れるようにしている。家族や大切な人が手紙や写真を持参した場合には入居者に渡している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレや浴室などにはプレートを貼って場所が分かり易いようにしている。朝はカーテンを開けて日光が部屋に入るようにし、夜はカーテンを閉めている。2~3時間おきに部屋の暑さなどをたずね、室温の温度調節は温度計で確認し過ごし易い室温を保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個々の居室があり、フロアと居室を自由に行き来して頂いている。フロアでは、気の合う利用者同士を隣にしたり、皆さんの中に入れていない方がいたら本人の思いを尊重した上でスタッフが間に入りコミュニケーションを取りやすくしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅で使っていた棚や毛布、写真などを持ってきてもらい居室で使用してもらっている。畳での生活を希望される方にはパズル式の畳を持参してもらい、居室の畳の上で横になれるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自分でトイレに行きたい、手を洗いたいなどと思った時に安全に移動できるよう、廊下やフロアには物を置かないように動線を確認している。		

V アウトカム項目( 2Fユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> ②数日に1回程度 <input type="checkbox"/> ③たまに <input type="checkbox"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①大いに増えている <input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている <input type="checkbox"/> ③あまり増えていない <input type="checkbox"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="checkbox"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームシェアーハッピネス

作成日 令和3年7月21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2・5	コロナ禍のため、外部との積極的な連携が取れない。災害時等の連携が不安である。	防災に関する知識・ノウハウを職員全員が身につける。	防災訓練について、消防署に相談し、ノウハウを伝授してもらう。研修で、職員全員の理解を深める。	1年
2	10	コロナ禍のため、家族の面会は中止しているが、家族の要望を聞く機会を設けた方がよい。	家族と職員とのコミュニケーションを高め、運営への理解を深めてもらう。	半年に一度、グループホームに来ていただき、意見交換、要望を聞く。	1年
3	26	職員一人一人が介護計画の内容を熟知していない。	介護計画について所長クインが把握し、計画に沿った介護ができる。	計画内容を表にし、日々達成の有無を記録していく。月に一度ミーティングを開催	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。